KURE ROTARY CLUB　ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT2710

WEEKLY BULLETIN

2022年12月22日(3440例会)(創立72周年)　呉ロータリークラブ週報　NO.3354

■呉RC 2022～2023年度テーマ　「変化する時代にこそ、変わらない絆づくりを」

「変化する時代にこそ、変わらない絆づくりを」
2022～2023年度 ジェニファー・ジョーンズ RI会長テーマ

会　長　増岡真一
副会長　太刀掛祐之　幹　事　中﨑　誠　会長エレクト　大上　功
直前会長　福田多喜二　会　計　和田　昭　会場監督　中河原圭司

〈事務局〉〒737-0045　呉市本通4丁目8-12
呉商工会議所ビル南館7階 705号室
☎(0823)24-4411　FAX(0823)21-5692

〈例会場〉〒737-0051 呉市中央1丁目1-1 呉阪急ホテル
☎(0823)20-1111　FAX(0823)20-1120
〈例会日時〉毎週木曜日　12：30～13：30

E-mail▶kure3rc@urban.ne.jp　HP/URL▶http://www.kurerotaryclub.jp　My Rotary▶https://my.rotary.org/ja/user

今週のメインプログラム

忘年家族例会
18：00～
呉阪急ホテル４Ｆ　皇城の間

次週のメインプログラム

12月29日㈭・1月5日㈭　休会
1月12日㈭　新年例会・年男「卯」卓話

第3439例会記録【12月15日㈭】

【プログラム】　◇ロータリー情報・研修委員会　担当例会

「呉ロータリークラブの歴史（昭和年）

松田 修典 先生による、呉ロータリークラブの歴史について、クラブが発足した創立記念誌、松田先生のご尊父 松田 一男 様が残された随筆集「呉陽雑記」と、ご自身の経験をもとに、とても分かり易く、楽しくお話を頂戴しました。

PS：昭和27年8月7日初版の週報は、現在3354版です。非常に歴史を感じます。

【出席率】　前々回89.86%　今回82.61%（会員72名・欠席12名・免除3名）

【他クラブ出席者】　◇明神君（12/13広島）・海生（知）君（12/15北海道2500ロータリーＥクラブ）　2名

【欠席者】　◇宇都宮（公）・畦・江山・大石・海生（知）・神田（朗）・重川・武田（信）・長行事・中河原・三宅・山村君　12名

【出席免除者】　◇大矢・奥川・海生（孝）君　3名

【幹事報告】　◇RI第2710地区事務局…2022年10月版のロータリー章典について。

◇　〃　…2021-22杉川年度地区活動報告書（配付）

◇RI第2710地区石川ガバナー…RI第2710地区第13期RLI-2710分科会研修パート1のご案内

◇東広島ロータリークラブ…例会変更・取消のお知らせ。1月17日㈫3クラブ合同新年夜間例会のため、同日18:30～へ変更。1月24日㈫イルミネーション撤去作業のため、同日12：30～会場変更。1月31日㈫職場訪問例会（道の駅西条のん太の酒蔵）のため同日12：30～例会場変更。サインメーク受付有り。1月3日㈫、2月7日㈫例会休会。

【委員会報告】　◇菅原 博文 ロータリー情報・研修委員会副委員長…ロータリーの友12月号のご紹介

◇神垣 和典 親睦活動委員長…忘年家族例会の御案内

【Ｓ．Ａ．Ａ】　◇武田 保信 君…夏場に体調を崩し永らく休んで居りましたが、大分、回復し五カ月振りに例会出席相成りました。今後共宜しく御願いします。

◇森澤 大司 君…今回は大変うれしいことがありました。いい縁をいただき、感謝です。

◇大塩 俊 君…時流に沿って年賀ハガキによる新年のご挨拶は、会社・個人ともに控えさせて頂く事に致しました。まだ半月ありますが、今年もお世話になりました。皆さまよいお年をお迎えください。メリークリスマス　アンド　ハッピーニューイヤー

◇藤井 聖 君…弊社のお仕事について、本日の中国新聞に掲載して頂きました。古川支社長様ありがとうございました。

◇入会記念日・事業所設立記念日のご紹介

◎ニコニコ基金金額　52,000円（累計金額　960,000円）

― 大学を卒業し　半世紀 ―

～歴代会長からの伝言～

大矢　宏典

9月13日、久し振りに母校東京慈恵会医科大学・附属病院を訪れました。

大学卒業50年を迎えると、我々同窓生は夫婦同伴で帝国ホテルに招待され、卒後50年を祝っていただくことが恒例となっております。コロナ禍のため開催が2年遅れ、また諸事情にて今回は大学の近くの東京プリンスホテルでの開催となりました。

私は昭和39年に大学に入学いたしました。

まず我々は、大学の学祖がどのような道を歩まれたかを教わりました。学祖である海軍軍医　高木兼寛先生は嘉永2年宮崎県にてお生まれになり、鹿児島医学校に入学、その後上京し海軍医務局に勤務された後、英国のセントトーマス病院医学校に留学されております。帰国後は「医学は実学であり、何よりも病気の予防・治療のためのもの」の信念の元に脚気病の研究に取り込まれました。

当時は脚気病の原因は東京大学、陸軍軍医を中心とするドイツ学派の伝染病説が支配的でありました。高木は軍艦を使った壮大な遠洋航海の実験（麦飯）から栄養欠陥説（ビタミンB）を掲げ、これによって脚気を完全に駆逐することに成功いたしました。この栄養欠陥説の明らかな成功にも関わらず、陸軍軍医を中心とするドイツ学派（森倫太郎＝森鴎外）はあくまで伝染病説をとって反対しました。これが有名な脚気論争であります。その後高木がこのような実学的医学の教育として並行して情熱を持って実践したのは人間形成のための教育でありました。彼が意図し、また、その後長く建学の精神となったものは「厳密な医学に裏打ちされた医術と、温かい心を持った医師を育てること」「医学・医療は研究者の為にあるものではなく病人の為にある」、この建学の精神は「病気を診ずして病人を診よ」という標語に凝縮され、しばしば用いられています。

私は昭和45年に卒業し医師となり、母校整形外科教室に入局し、大学病院、附属病院、関連病院等にて整形外科学を学びました。

学生から医局時代の大学学長は、後に本学中興の祖と言われる第六代学長　樋口一成先生（高木兼寛の母方の孫）でした。先生は、学生時代は医学生として学問も大切であるが「左手に文化を右手にスポーツを」と言われました。そして「医師たる者は礼節を重んじること、服装・挨拶はきちんとすること、視野を広く、趣味を豊かに、幅の広い人間になって患者さんと接すること」と指導されました。

私は昭和56年に大学を辞し、呉に帰りました。

開業医となり地域医療に携わるようになり「病気を診ずして病人を診よ」の教えが少しずつ判るようになった気が致します。

そして昭和60年に縁あって呉ロータリークラブに入会させて頂きました。

ロータリークラブでは多くの異種業種の方々と出会う事ができ、色々なことを教わり、また学ばせて頂きました。感謝の気持ちでいっぱいです。そのロータリーの事は紙面の関係上次回とさせて頂きます。